

第1四半期報告書

本書は、EDINET(Electronic Disclosure for Investors' NETwork)システムを利用して金融庁に提出した第1四半期報告書の記載事項を、紙媒体として作成したものであります。

タキロン株式会社

(E00823)

目 次

【表紙】	1
第一部 【企業情報】	2
第1 【企業の概況】	2
1 【主要な経営指標等の推移】	2
2 【事業の内容】	2
第2 【事業の状況】	3
1 【事業等のリスク】	3
2 【経営上の重要な契約等】	3
3 【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】	3
第3 【提出会社の状況】	5
1 【株式等の状況】	5
(1) 【株式の総数等】	5
① 【株式の総数】	5
② 【発行済株式】	5
(2) 【新株予約権等の状況】	5
(3) 【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】	5
(4) 【ライツプランの内容】	5
(5) 【発行済株式総数、資本金等の推移】	5
(6) 【大株主の状況】	5
(7) 【議決権の状況】	6
① 【発行済株式】	6
② 【自己株式等】	6
2 【役員の状況】	6
第4 【経理の状況】	7
1 【四半期連結財務諸表】	8
(1) 【四半期連結貸借対照表】	8
(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】	10
【四半期連結損益計算書】	10
【第1四半期連結累計期間】	10
【四半期連結包括利益計算書】	11
【第1四半期連結累計期間】	11
【注記事項】	12
【セグメント情報】	13
2 【その他】	14
第二部 【提出会社の保証会社等の情報】	15
レビュー報告書	巻末

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	関東財務局長
【提出日】	平成25年8月9日
【四半期会計期間】	第119期第1四半期 (自 平成25年4月1日 至 平成25年6月30日)
【会社名】	タキロン株式会社
【英訳名】	T a k i r o n C o . , L t d .
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 兵頭 克盛
【本店の所在の場所】	大阪市北区梅田三丁目1番3号(ノースゲートビルディング)
【電話番号】	06-6453-3700(代表)
【事務連絡者氏名】	執行役員 業務部長 武田 豊
【最寄りの連絡場所】	東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟)
【電話番号】	03-6711-3700(代表)
【事務連絡者氏名】	業務部長付 船井 達也
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 (東京都中央区日本橋兜町2番1号) タキロン株式会社 東京本社 (東京都港区港南二丁目15番1号(品川インターシティA棟)) タキロン株式会社 中部支店 (名古屋市東区葵一丁目19番30号(マザックアートプラザ))

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第118期 第1四半期連結 累計期間	第119期 第1四半期連結 累計期間	第118期
会計期間	自 平成24年 4月1日 至 平成24年 6月30日	自 平成25年 4月1日 至 平成25年 6月30日	自 平成24年 4月1日 至 平成25年 3月31日
売上高 (百万円)	18,004	17,528	67,808
経常利益 (百万円)	1,683	1,456	4,827
四半期(当期)純利益(百万円)	1,568	815	3,395
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	1,454	944	3,805
純資産額 (百万円)	42,888	45,332	44,889
総資産額 (百万円)	77,166	78,784	77,977
1株当たり四半期(当期) 純利益金額 (円)	21.88	11.38	47.37
潜在株式調整後1株当たり四半期 (当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	54.7	56.7	56.7

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額について、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第1四半期連結累計期間において、当社グループ(当社および当社の関係会社)において営まれている事業の内容について、重要な変更はありません。

また、主要な関係会社の異動はありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第1四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについて重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第1四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定または締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

(1) 業績等の概況

当第1四半期連結累計期間におけるわが国経済は、政府および日銀が一体となった経済対策・金融政策などを背景に、過度な円高の是正に伴う輸出環境の改善や株価上昇など明るい兆しが見え始め、企業の生産活動も持ち直しの動きが見られました。

一方で、原材料価格の高騰や海外景気の下振れなど懸念材料も内在しており、予断を許さない経営環境が続いております。

このような状況のもと、当第1四半期連結累計期間の連結業績は、売上高は17,528百万円（前年同四半期比2.6%減）、営業利益は1,396百万円（前年同四半期比14.9%減）、経常利益は1,456百万円（前年同四半期比13.5%減）となりました。なお四半期純利益は、815百万円、前期は退職給付制度改定益（特別利益）927百万円を計上していたため、前年同四半期比48.0%減となりました。

セグメント別の事業の状況は、次のとおりであります。

住環境事業

住設資材部門は、戸建住宅の新設住宅着工戸数が前年同期比増加傾向にあったことから、雨どいシステムのジェットライン、排水ますや小口径マス等の管工機材や内装材等の住宅資材が堅調に推移し、売上は前年同四半期を上回りました。

採光建材部門は、ポリカーボネート製平板および加工品、ルメカーボは順調に売上を伸ばしましたが、波板関連が突風被害による特需のあった前年に比べ売上が下回ったため、売上は前年同四半期を下回りました。

環境・土木部門は、公共投資が動き出し、設計折り込み物件の納入が進んだことにより、売上は前年同四半期を上回りました。

エンジニアリング部門は、上下水道分野は、物件の受注増や新製品関連の納入が進み順調に推移しましたが、管更生分野（下水管渠のリニューアル資材）は、政令指定都市の受注済物件のずれ込みの影響を受け伸び悩んだことから、売上は前年同四半期を下回りました。

その結果、住環境事業の売上高は9,139百万円（前年同四半期比6.9%減）、営業利益は515百万円（前年同四半期比49.5%減）となりました。

床事業

床事業は、マンション新築・改修市場が順調に推移したことから、汎用品、高付加価値製品ともに売上は堅調に推移しました。

その結果、床事業の売上高は2,975百万円（前年同四半期比0.8%増）、営業利益は891百万円（前年同四半期比0.2%減）となりました。

高機能材事業

プレート部門は、世界的な半導体・液晶関連における設備投資が緩やかに回復基調に推移したことや円高是正の影響により、FMプレート（難燃材料）や制電プレートなど工業用プレートの需要が増加しました。特に海外の大型案件を獲得したことにより、売上は前年同四半期を上回りました。

ポリカプレート部門は、一般産業機械カバー用途を中心とした汎用品が伸び悩みましたが、半導体関連用途の高機能品が順調に推移したことにより、売上は前年同四半期を上回りました。

その結果、高機能材事業の売上高は4,931百万円（前年同四半期比2.2%増）、営業利益は60百万円（前年同四半期は157百万円の営業損失）となりました。

メディカル事業

骨接合材料部門は、整形外科分野を中心とするスーパーフィクソープおよび頭蓋顎顔面外科分野のスーパーフィクソープMXともに販売が増加したことにより、売上は前年同四半期を上回りました。

その結果、メディカル事業の売上高は481百万円（前年同四半期比16.4%増）、営業損失は70百万円（前年同四半期は114百万円の営業損失）となりました。

（2）資産、負債及び純資産の状況

当第1四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末より807百万円増加し、78,784百万円となりました。これは主に受取手形及び売掛金、商品及び製品が増加したことにより、流動資産が961百万円増加したことによるものです。一方、負債は、前連結会計年度末より364百万円増加し、33,452百万円となりました。これは主に支払手形及び買掛金が増加したことにより、流動負債が500百万円増加したことによるものです。また、純資産は、前連結会計年度末より442百万円増加し、45,332百万円となりました。自己資本比率は、56.7%となりました。

（3）事業上及び財務上の対処すべき課題

当第1四半期連結累計期間において、当社グループが対処すべき課題について重要な変更はありません。

（4）研究開発活動

当第1四半期連結累計期間に支出した研究開発費は基礎研究に係るもので、総額198百万円（消費税等を除く）であります。

なお、当第1四半期連結累計期間において、当社グループの研究開発活動の状況に重要な変更はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数(株)
普通株式	178,008,000
計	178,008,000

②【発行済株式】

種類	第1四半期会計期間末現在発行数(株) (平成25年6月30日)	提出日現在発行数(株) (平成25年8月9日)	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	78,698,816	78,698,816	東京証券取引所 市場第一部	権利内容に何ら限定 のない当社における 標準となる株式であ り、単元株式数は 1,000株であります。
計	78,698,816	78,698,816	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式総 数増減数 (千株)	発行済株式総 数残高(千株)	資本金増減額 (百万円)	資本金残高 (百万円)	資本準備金増 減額 (百万円)	資本準備金残 高(百万円)
平成25年4月1日～ 平成25年6月30日	—	78,698	—	15,189	—	14,661

(6)【大株主の状況】

当四半期会計期間は第1四半期会計期間であるため、記載事項はありません。

(7) 【議決権の状況】

当第1四半期会計期間末現在の「議決権の状況」については、株主名簿の記載内容が確認できないため、記載することができないことから、直前の基準日（平成25年3月31日）に基づく株主名簿による記載をしております。

① 【発行済株式】

平成25年3月31日現在

区分	株式数（株）	議決権の数（個）	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式（自己株式等）	—	—	—
議決権制限株式（その他）	—	—	—
完全議決権株式（自己株式等）	（自己保有株式） 普通株式 7,025,000	—	権利内容に何ら限定のない当社における標準となる株式
完全議決権株式（その他）	普通株式 71,294,000	71,293	同上
単元未満株式	普通株式 379,816	—	—
発行済株式総数	78,698,816	—	—
総株主の議決権	—	71,293	—

(注) 1. 「完全議決権株式（その他）」欄の普通株式には、証券保管振替機構名義の株式が1,000株（議決権1個）含まれております。

2. 「完全議決権株式（その他）」欄の議決権の数（個）には、証券保管振替機構名義の株式に係る議決権の数1個は含まれておりません。

② 【自己株式等】

平成25年3月31日現在

所有者の氏名又は名称	所有者の住所	自己名義所有株式数（株）	他人名義所有株式数（株）	所有株式数の合計（株）	発行済株式総数に対する所有株式数の割合（%）
（自己保有株式） タキロン（株）	大阪市北区梅田三丁目1番3号	7,025,000	—	7,025,000	8.93
計	—	7,025,000	—	7,025,000	8.93

2 【役員】の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表について、有限責任 あずさ監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】
 (1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	10,111	9,883
受取手形及び売掛金	※2 24,958	※2 25,597
有価証券	9	9
商品及び製品	6,349	6,743
仕掛品	2,272	2,345
原材料及び貯蔵品	1,594	1,747
繰延税金資産	800	817
その他	1,005	789
貸倒引当金	△168	△37
流動資産合計	46,935	47,897
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	7,854	7,785
機械装置及び運搬具（純額）	4,215	4,126
土地	10,065	10,065
建設仮勘定	176	112
その他（純額）	922	931
有形固定資産合計	23,233	23,020
無形固定資産		
のれん	170	152
その他	398	389
無形固定資産合計	568	541
投資その他の資産		
投資有価証券	3,426	3,642
繰延税金資産	2,805	2,724
その他	1,156	1,104
貸倒引当金	△149	△146
投資その他の資産合計	7,239	7,324
固定資産合計	31,041	30,887
資産合計	77,977	78,784

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	※2 12,717	※2 13,997
短期借入金	2,500	2,654
1年内返済予定の長期借入金	1,000	1,000
未払法人税等	1,224	728
賞与引当金	938	523
その他	2,970	2,946
流動負債合計	21,351	21,852
固定負債		
長期借入金	500	500
繰延税金負債	862	854
退職給付引当金	8,969	8,905
役員退職慰労引当金	189	5
資産除去債務	203	203
その他	1,012	1,130
固定負債合計	11,735	11,600
負債合計	33,087	33,452
純資産の部		
株主資本		
資本金	15,189	15,189
資本剰余金	14,667	14,667
利益剰余金	15,767	16,081
自己株式	△2,013	△2,013
株主資本合計	43,610	43,923
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	629	758
為替換算調整勘定	△62	△49
その他の包括利益累計額合計	567	709
少数株主持分	711	699
純資産合計	44,889	45,332
負債純資産合計	77,977	78,784

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】
 【四半期連結損益計算書】
 【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
売上高	18,004	17,528
売上原価	11,766	11,462
売上総利益	6,237	6,066
販売費及び一般管理費	4,596	4,669
営業利益	1,641	1,396
営業外収益		
受取配当金	39	43
その他	54	55
営業外収益合計	94	98
営業外費用		
支払利息	22	17
その他	29	21
営業外費用合計	52	38
経常利益	1,683	1,456
特別利益		
退職給付制度改定益	927	—
特別利益合計	927	—
特別損失		
固定資産処分損	8	1
特別損失合計	8	1
税金等調整前四半期純利益	2,602	1,454
法人税等	1,037	657
少数株主損益調整前四半期純利益	1,565	797
少数株主損失(△)	△2	△17
四半期純利益	1,568	815

【四半期連結包括利益計算書】
【第1四半期連結累計期間】

(単位：百万円)

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
少数株主損益調整前四半期純利益	1,565	797
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△122	130
為替換算調整勘定	7	14
持分法適用会社に対する持分相当額	3	2
その他の包括利益合計	△110	147
四半期包括利益	1,454	944
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,455	957
少数株主に係る四半期包括利益	△1	△12

【注記事項】

(四半期連結財務諸表の作成にあたり適用した特有の会計処理)

(税金費用の計算)

税金費用については、当第1四半期連結会計期間を含む連結会計年度の税引前当期純利益に対する税効果会計適用後の実効税率を合理的に見積り、税引前四半期純利益に当該見積実効税率を乗じて計算しております。

(四半期連結貸借対照表関係)

- 1 偶発債務
債務保証

連結会社以外の銀行等借入金に対して、次のとおり保証を行っております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
従業員の住宅資金借入金	91百万円	81百万円

※2 四半期連結会計期間末日満期手形

四半期連結会計期間末日の満期手形の会計処理については、手形交換日をもって決済処理しております。

なお、当第1四半期連結会計期間末日は金融機関の休日であったため、次の四半期連結会計期間末日満期手形が当第1四半期連結会計期間末残高に含まれております。

	前連結会計年度 (平成25年3月31日)	当第1四半期連結会計期間 (平成25年6月30日)
受取手形	1,387百万円	977百万円
支払手形	106百万円	129百万円

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

当第1四半期連結累計期間に係る四半期連結キャッシュ・フロー計算書は作成しておりません。なお、第1四半期連結累計期間に係る減価償却費(のれんを除く無形固定資産に係る償却費を含む。)、のれんの償却額及び負ののれんの償却額は、次のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
減価償却費	758百万円	665百万円
のれんの償却額	30	17
負ののれんの償却額	3	0

(株主資本等関係)

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成24年6月27日 定時株主総会	普通株式	286	4.0	平成24年3月31日	平成24年6月28日	利益剰余金

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)

配当金支払額

(決議)	株式の種類	配当金の総額 (百万円)	1株当たり 配当額 (円)	基準日	効力発生日	配当の原資
平成25年6月26日 定時株主総会	普通株式	501	7.0	平成25年3月31日	平成25年6月27日	利益剰余金

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第1四半期連結累計期間(自平成24年4月1日至平成24年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	住環境事業	床事業	高機能材事業	メディカル事業	計
売上高					
(1)外部顧客への売上高	9,811	2,952	4,826	414	18,004
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	8	2	5	—	16
計	9,819	2,955	4,831	414	18,020
セグメント利益又は損失(△)	1,020	892	△157	△114	1,641

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

II 当第1四半期連結累計期間(自平成25年4月1日至平成25年6月30日)

報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	住環境事業	床事業	高機能材事業	メディカル事業	計
売上高					
(1)外部顧客への売上高	9,139	2,975	4,931	481	17,528
(2)セグメント間の内部 売上高又は振替高	8	4	9	—	22
計	9,148	2,979	4,941	481	17,550
セグメント利益又は損失(△)	515	891	60	△70	1,396

(注)セグメント利益又は損失は、四半期連結損益計算書の営業利益と一致しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第1四半期連結累計期間 (自平成24年4月1日 至平成24年6月30日)	当第1四半期連結累計期間 (自平成25年4月1日 至平成25年6月30日)
1株当たり四半期純利益金額	21円88銭	11円38銭
(算定上の基礎)		
四半期純利益金額(百万円)	1,568	815
普通株主に帰属しない金額(百万円)	—	—
普通株式に係る四半期純利益金額(百万円)	1,568	815
普通株式の期中平均株式数(千株)	71,677	71,672

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成25年 8月 9日

タキロン株式会社
取締役会 御中

有限責任 あずさ監査法人

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 近藤 康仁 印

指定有限責任社員
業務執行社員 公認会計士 高橋 和人 印

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられているタキロン株式会社の平成25年4月1日から平成26年3月31日までの連結会計年度の第1四半期連結会計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）及び第1四半期連結累計期間（平成25年4月1日から平成25年6月30日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、タキロン株式会社及び連結子会社の平成25年6月30日現在の財政状態及び同日をもって終了する第1四半期連結累計期間の経営成績を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

-
- (注) 1 上記は、四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。
2 四半期連結財務諸表の範囲にはXBRLデータ自体は含まれておりません。